健康さんインタビュー　（聞き手：笠井　洋、鶴若　計子）

2025年2月1日　品川プリンスホテル

今回は港区にお住いの松岡秀枝さん（81歳）にお話を伺いました。
提供いただいた資料の内容も含め、故郷天草での活動などについて、いろいろとお話を伺いました。

松岡さんは2002年に早期退職されてから、月に10日は故郷天草に帰省して一人暮らしのおかあさんのお世話をされていました。

2005年、当時86歳だった園田天光光先生（元衆議院議員）から先生の夢である「世界平和大使人形の館」つくりの手伝いを依頼され、NPO 法人「世界平和大使人形の館をつくる会」に参加しました。

園田先生は、昭和2年にアメリカから日本に贈られた 12,000 体以上の青い目の人形が太平洋戦争（第二次世界大戦）中に敵性人形として処分されたことに思いをはせ、1979年の国際児童年に多くの方の協力を得て101対の市松人形を100か国の駐日大使館と国連本部に贈りました。その返礼として57か国から送られた117体の人形が「世界平和大使人形」です。

先生は長い間倉庫に保管していた「世界平和大使人形」を展示して文化交流や平和教育の拠点となる「世界平和大使人形の館」つくりを発意され、長年にわたり人形の展示会や講演会などを行い、募金活動を続けてきました。

松岡さんは2006年に「世界平和大使人形の館をつくる会」が正式に発足してからはメンバーとして活動に参加し、チャリティー活動への協力や建設候補地の自治体との折衝などを行いました。その後、様々な曲折を経て、天草市のご支援もあり2013年11月に熊本県天草市にある「天草コレジヨ館」（天草のキリシタン文化を展示する施設　コレジヨは大神学校の意味で、1591年から1597年まで天草に開校されていた）の二階にあった図書館を移設した後に「世界平和大使人形の館」が開館しました。

・東京と故郷の天草を行き来する、今でいう二拠点生活を20年以上前から実践されてきましたが、いかがでしたか。

天草では母とのつながりで電気屋さん、魚屋さん、農家の方、高校時代の友人などによくしていただき、楽しく生活できました。また、料理好きの母からいろいろと料理を教わることもできました。生前の母からは生活の知恵と、わが家の幸せのレシピを学びました。これらの多くが生活の場の応用につながりました。

母が亡くなるまでの13年間は月に10日のペースでの帰省を続けて故郷での生活を楽しんできました。

フォトエッセイ集と松岡さん

・そのころの暮らしぶりがフォトエッセイ集「天使と薔薇」につづられており、楽しい毎日の様子がうかがえます。フォトエッセイ集を作られたきっかけはどんなことだったのですか。

友人から素敵な表紙のノートブックを贈られたのをきっかけに通信教育のエッセイ講座を申し込み、さらにカルチャースクールのフォトエッセイ教室に通いました。親しみやすく、優しいエッセイを書くことを目標にしました。

最初の読者は母でした。「今月の作文は」と、毎月楽しみにしてくれました。

母が他界すると、母との過ぎし日の思い出が詰まった時間をまとめておこうとの思いにふるいたち、私にとって大切な天草と母と家族、友人・知人たちとのつながりをコンセプトにまとめました。

世界平和大使人形の館

・「世界平和大使人形の館をつくる会」や園田天光光先生とはどのように知り合ったのですか。

先生とは母の代からのお付き合いで、私は東京の学校を受験するときに先生のお宅でお世話になりました。先生にはその時から可愛がっていただき、多くのことを学びました。

「つくる会」では事務局を担当し、8年間募金活動をしてメンバーと全国を回りました。設置場所が天草に決まってからは天草市役所との連携の仕事がありました。

母の介護と人形館の設立の両立が私の生きがいになりました。

・「人形の館」も完成して一区切りがつきましたね。

「人形の館」設立１年後に先生は96才で他界されましたが、先生のご遺言は「人形を飾っているだけでなく、天草から平和活動を発信してください」でした。

2016年に新たに発足した NPO 法人「世界平和大使人形の会」では、平和教育の教材として紙芝居「世界の平和は子どもから」を作成して各地で上演しています。また、2019年には「平和大使人形」に、より親しみを持ってもらおうと、人形を送ってくださった57か国の大使館に命名を依頼して、命名式を開催しました。

紙芝居の表紙

その他にも人形の会では、来館者、友人、病院のリハビリなどで折った鶴を千羽鶴にして長崎・沖縄に届けました。また、青い目の人形が処分された時のことを知っている方に取材をするなどの活動をしてきました。2023年には活動誌をつくり、紙芝居の DVD も作成しました。これからは DVD を英訳して各国の大使館にお送りしたいと思っています。

・現役時代には園遊会に招かれましたね。

2001年10月に健康保険連合会の秘書室長から連絡をいただきました。

私は公衆衛生分野の産業保健師として松下電器健康保険組合　東京健康管理センター保健看護部に所属していました。このころ、今後の高齢化社会を考え、厚生省が考案していく高齢者保健福祉事業（モデル事業）が課題であり、企画案を募集していました。これに応募したらとすすめられ、4事業で2000万円の企画案を提出したら、すべて通り、実践して報告書も作成しました。ほかにもエイズ予防対策の取り組みや日本産業衛生学会での社会的活動も総合的に評価され、園遊会に推薦していただいたと経過をお聞きしました。

このモデル事業は私が提案はしましたが、実践できたのは会社・健保はじめ保健チームのメンバー、モデルになっていただいた松下グループの OB 会の方々の協力があり成功できました。代表として私が招待していただき、身に余る光栄でしたが、みなさまに感謝したい気持ちでいっぱいです。

みごとに手入れされた赤坂御苑の広大な秋の園内は、満開の菊が咲きほこり、鳥の声が聞こえ、雅楽や音楽隊の演奏が奏でられる、そこは別世界に躍り込んだようでした。私の人生の中で、それは夢のような1ページでした。

・これからの目標と、いつまでもお元気で活躍し続ける秘訣を聞かせてください。

フォトエッセイ集にも何度か登場した愛猫ジローの物語を絵本にしたいと考えています。

「人形の館」を通した平和教育活動もさらに広げていきたいと思います。人形の会では紙芝居を大きな絵本にして広く読み聞かせに使ってもらいたいとも思っています。

皆さんにお伝えしたいことは

・無理をしないで健康に気をつけること
・先生のようにいくつになっても夢と希望を持つこと
・人とのつながりを大切にすること

です。そしていつも小さくても目的をもち、前向きに、ゆっくりと、チャレンジしていきたいです。